

越谷市の環境施策の取組み について

令和5年8月29日

令和5年度 第1回 越谷市環境審議会

越谷市環境審議会とは

越谷市環境条例に基づき設置

「この条例によりその権限に属する事項並びに市長の諮問に応じ環境の保全及び創造に関する基本的事項及び重要事項を調査審議させる等のため、環境審議会をおく。」(第25条)

- ・ 委員 15 人以内で組織
- ・ 任期 2 年（再任を妨げない）
- ・ 特別部会を置くことができる
 - ① 特別の事項を調査、審議するため必要があるとき環境審議会の指名する委員及び臨時委員で組織
 - ② 任期は、当該特別の事項に関する調査、審議が終了するまで

Part I

環境管理計画って何ですか？



環境の保全及び創造に関する施策を
総合的かつ計画的に推進するための基本計画です。

越谷市における環境課題

温室効果ガス排出量の削減目標が未達成

特に家庭部門の増加

再生可能エネルギー電力への転換が進んでいない

生きものが絶滅又は減少

生物多様性が普及、理解されていない

市内の再生可能エネルギーだけでエネルギー需要を満たすことは困難

今やれる施策や技術だけでは大幅な削減が困難

生息・生育地の環境が劣化

生息・生育地が分断・消失

適応の認知度が低い

市域の影響やその規模が未把握

ごみ総排出量の更なる減量が必要

光化学オキシダント濃度が環境基準を超過

生活排水による河川汚濁の発生

適応に関する庁内の連携体制が確立されていない

リサイクル率の目標未達成

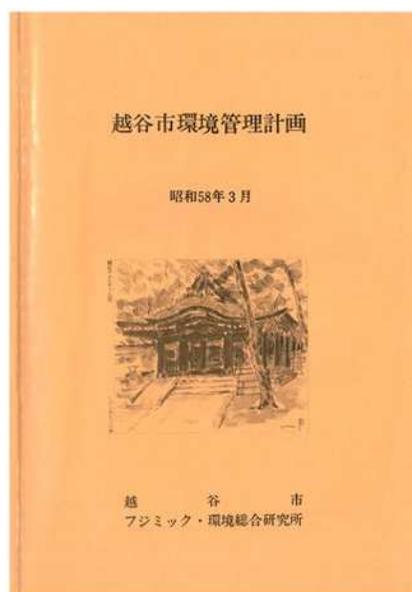
プラスチックごみによる海洋汚染

協働の仕組みはあるが参加はごく一部に限定

消費力は大きい
がエシカル消費に転換できていない

超高齢社会への対応

これまでに策定された越谷市の環境管理計画



昭和58年
(1983年)



平成13年
(2001年)



平成23年
(2011年)



令和3年
(2021年)

環境・社会情勢の変化に対応するため計画を改定

現行の越谷市環境管理計画のポイント



市の望ましい環境像

「みんなで創ろう

越谷の豊かな環境と未来」

を実現するため、

6の環境指標（定量評価）

45の取組指標(定量評価)

307の実施施策

（状況を確認し内容を整理）

を設定し、

さらに、SDGsの3側面(環境・社会・経済)の

統合的かつ象徴的な取組を

推進プロジェクトとして抽出。

計画期間

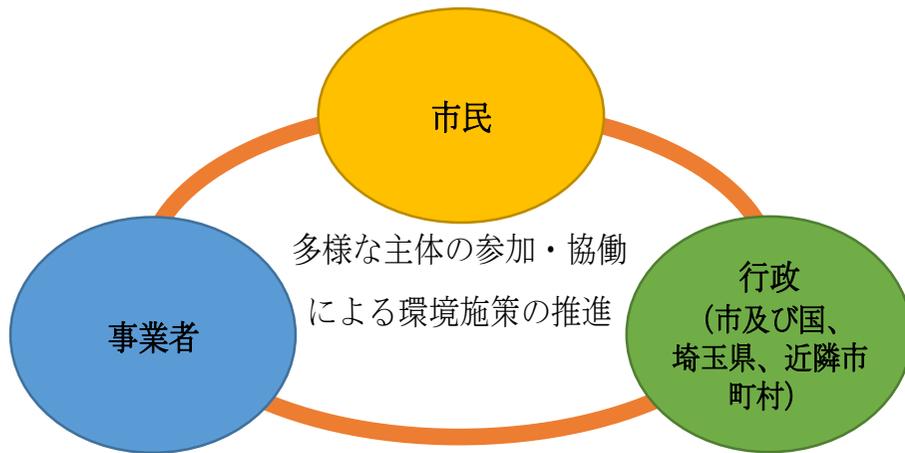
令和3年度(2021年度)から

令和12年度(2030年度)まで

3つの基本理念



- 環境面から社会・経済課題の同時解決
- 行政・市民・事業者の協働
- 地域資源の持続的な活用



地域循環共生圏の機能

「循環の環」が重層的に形成

広域での循環が効率的なものについては地域間で連携を図りつつ適正な規模の「循環の環」を形成

地域で循環可能な資源はなるべく地域で循環

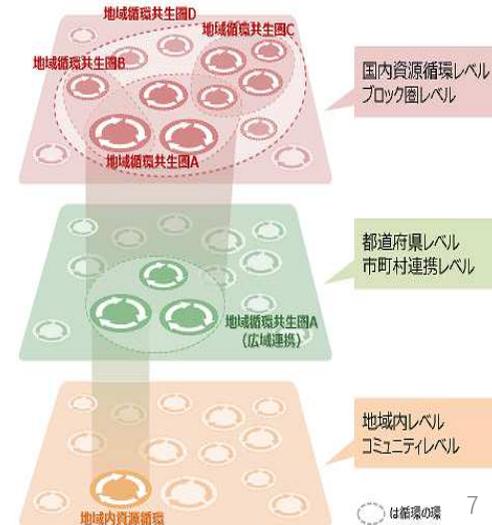
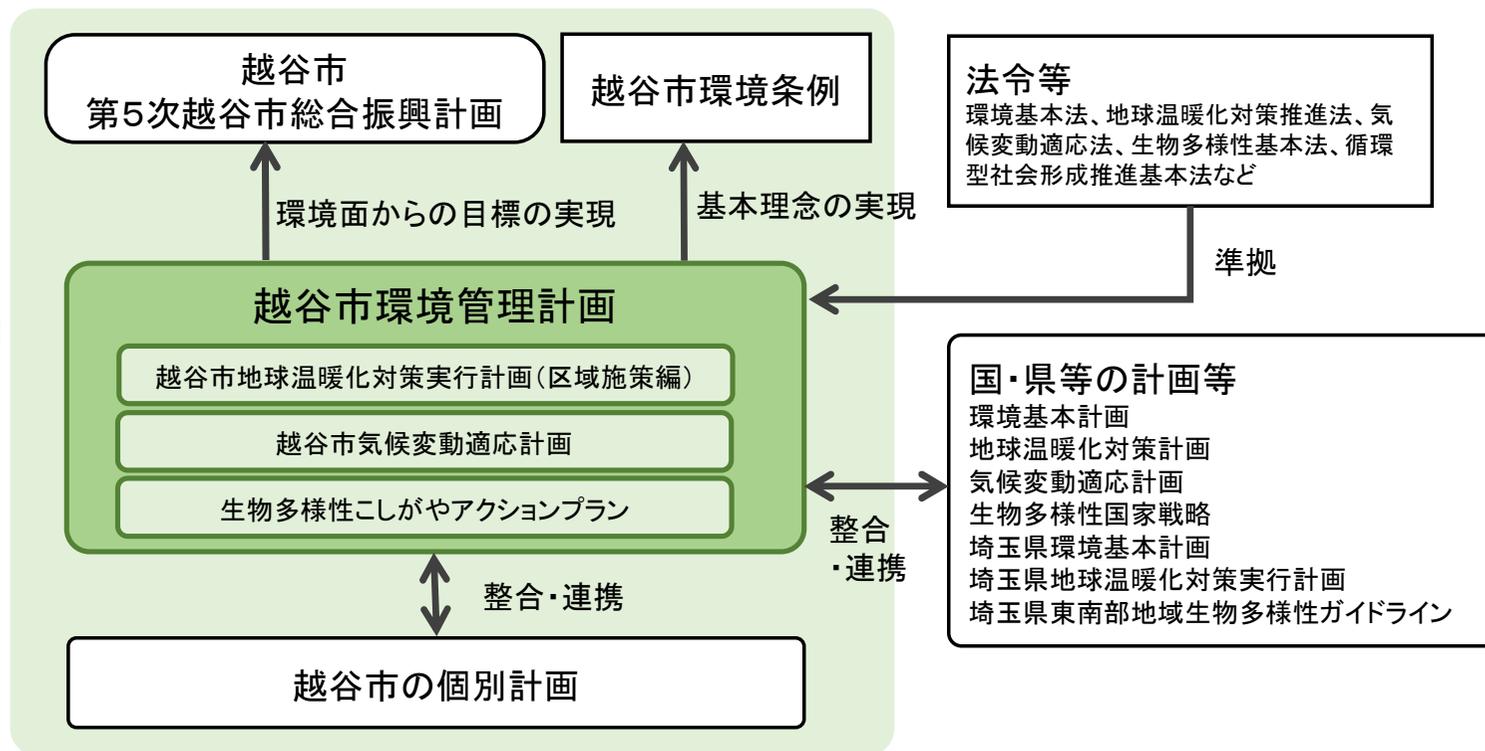


図 重層的・適切な規模での地域循環共生圏構築のイメージ図 (出典) 環境省

計画の位置づけ

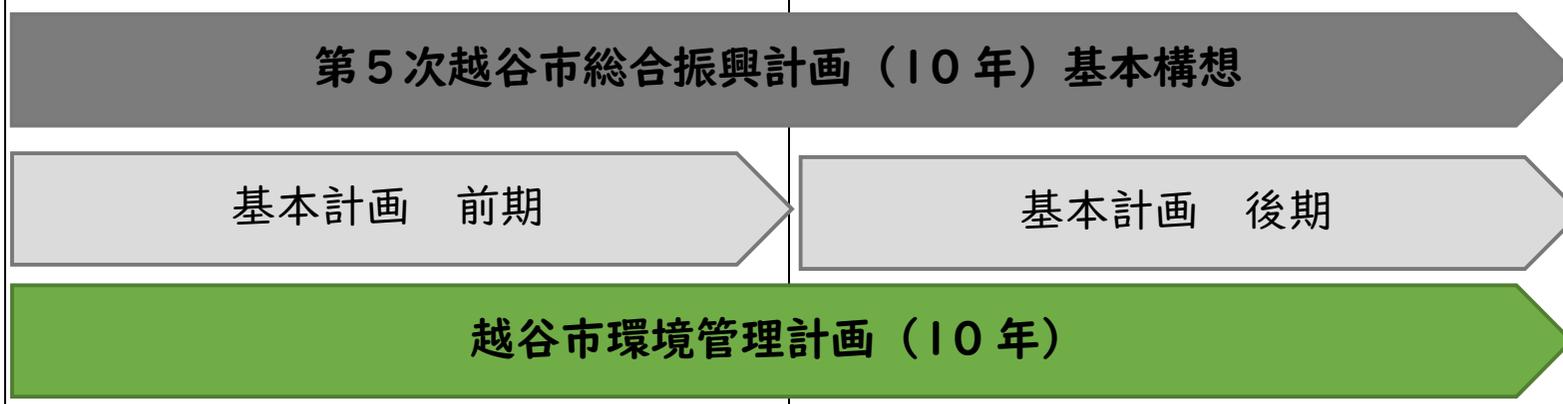


計画期間

令和3年度
(2021年度)

令和8年度
(2026年度)

令和12年度
(2030年度)



▲見直し時期



令和8年度に
中間見直しを
する予定だよ

施策の展開方向



基本目標1 脱炭素社会の構築

地球温暖化、省エネルギー、再生可能エネルギー、交通など

基本目標2 気候変動影響への適応

気候変動影響、ヒートアイランド現象、防災など

基本目標3 資源循環型の地域形成

ごみ減量、廃棄物処理、資源リサイクル、地産地消など

基本目標4 生物多様性の保全と回復

緑、生態系、生物多様性、公園緑地、環境保全型農業など

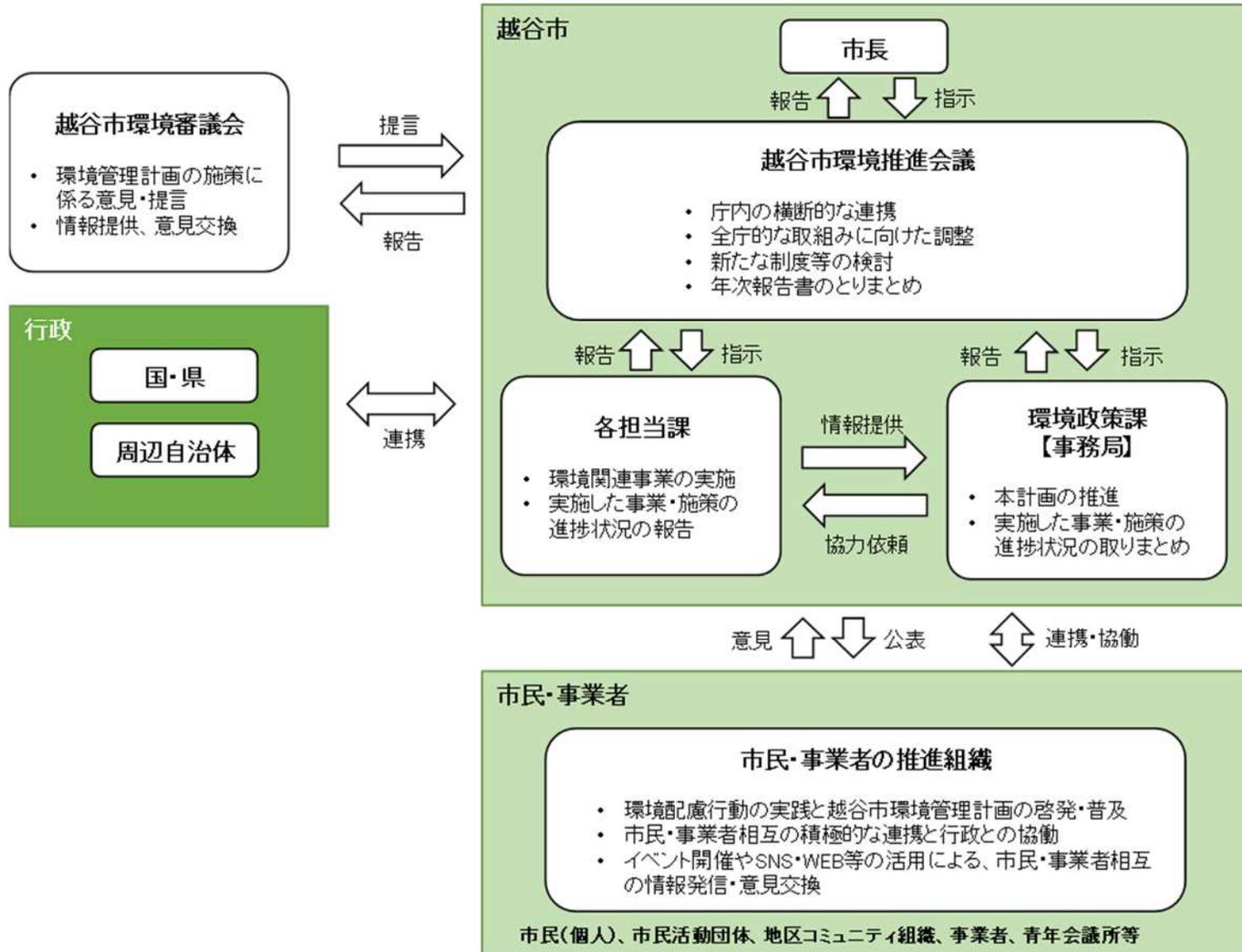
基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

大気、水質、騒音・振動、悪臭・土壌等、景観、美化活動など

基本目標6 人づくり、参加・協働

環境教育、環境活動、環境配慮行動など

計画の推進体制



Part
2

環境管理計画の 実施状況は？



基本目標Ⅰ 脱炭素社会の構築

【取組の方向性】

- Ⅰ-1 エネルギーの効率的な利用
- Ⅰ-2 再生可能エネルギーの導入拡大
- Ⅰ-3 再生可能エネルギー電力への転換
- Ⅰ-4 二酸化炭素吸収源の拡大
- Ⅰ-5 都市基盤と交通ネットワークの形成
- Ⅰ-6 ごみの発生抑制の推進
- Ⅰ-7 革新的な取組の探求



基本目標Ⅰ 脱炭素社会の構築

取組が貢献する、SDGsの該当ゴール



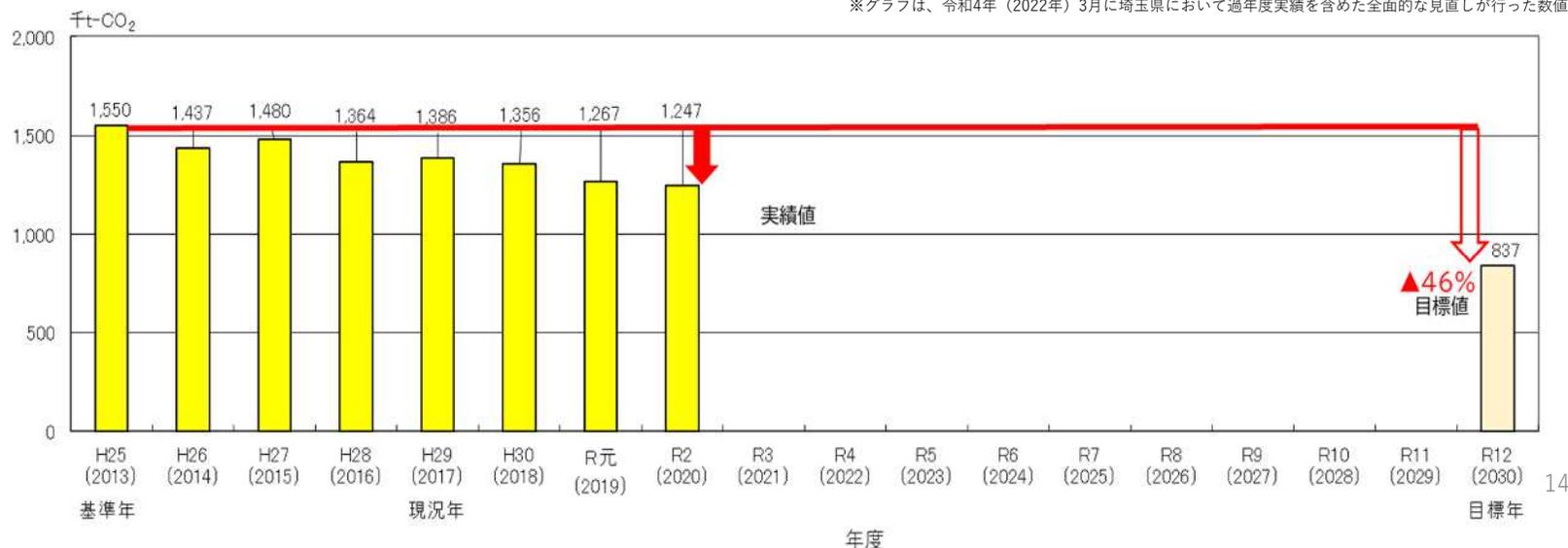
温室効果ガスの大幅削減を実現します。そのため、行政は他の関係者と協働し、緊急時のエネルギー確保の仕組みや、エネルギー効率を高めた都市基盤の整備を進めます。市民や事業者は温室効果ガスを排出しない生活や事業活動を心がけ、行動します。

■環境指標

指標名	実績値						目標値 令和12年度 (2030)	評価
	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)	令和7年度(2025)			
市域からの温室効果ガス排出量 (総振) 市域からの温室効果ガス排出量のうち、二酸化炭素(CO ₂)とメタン(CH ₄)、一酸化二窒素(N ₂ O)の排出量【年間】								
現状値 令和元年度 (2019)	2013年度比 10.6%減 (平成29年)	2013年度比 18.3%減 (令和元年)	2013年度比 19.6%減 (令和2年)	-	-	-	2013年度比 46%以上減	B

越谷市域全体における温室効果ガス排出量

※グラフは、令和4年(2022年)3月に埼玉県において過年度実績を含めた全面的な見直しが行った数値で作成しています。



基本目標Ⅰ 脱炭素社会の構築

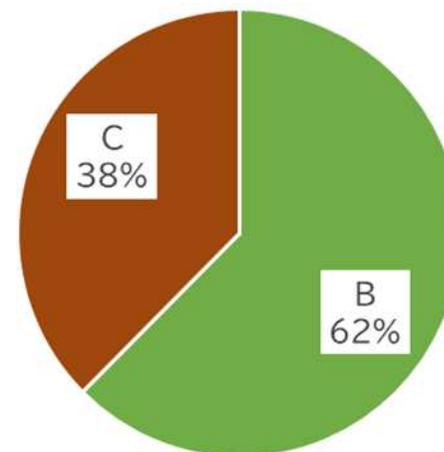
取組が貢献する、SDGsの該当ゴール



温室効果ガスの大幅削減を実現します。そのため、行政は他の関係者と協働し、緊急時のエネルギー確保の仕組みや、エネルギー効率を高めた都市基盤の整備を進めます。市民や事業者は温室効果ガスを排出しない生活や事業活動を心がけ、行動します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R4 (2022)	進捗 R4 (2022)	評価 R4 (2022)
基本目標Ⅰ 脱炭素社会の構築						
1-1	地球温暖化・COOL CHOICE普及取組年間参加者数（市民・事業者）	人	500	260	32%	B
1-2	建築物省エネ法に基づく届出等件数（総振）	件	980	409	26%	B
1-3	市の事業・支援による太陽光発電設備の発電容量（総振）	kW	11,000	8,780	38%	B
1-4	市の事業・支援による蓄電池の蓄電容量（EV含む）	kWh	6,700	2,413	29%	B
1-5	持続性の高い緑地面積	ha	1,445	1,403	0%	C
1-6	乗合交通利用圏域のカバー率（総振）	%	76.5 (R7 (2025))	70	0%	C
1-7	リサイクル率（総振）	%	25	16.4	0%	C
1-8	革新的な取組の反映件数	件	5	1	20%	B



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
	0	5	3	0	8

令和5年3月から地区センターや小中学校を含む75の公共施設（全公共施設の総電力使用量のうち約37%相当）に実質再生可能エネルギー由来の電力約1,430万kWhを導入した。

基本目標2 気候変動影響への適応

【取組の方向性】

- 2-1 気候変動適応の理解促進
- 2-2 気候変動適応の推進に係る庁内連携の構築
- 2-3 気候変動に対する適応力の向上
 - 暑熱対策の推進
 - 水害対策の推進
 - 渇水対策の推進
 - 自然生態系対策の推進
 - 農業対策の推進
 - 気候変動適応策の活用

【まるごとまちごとハザードマップの設置状況】

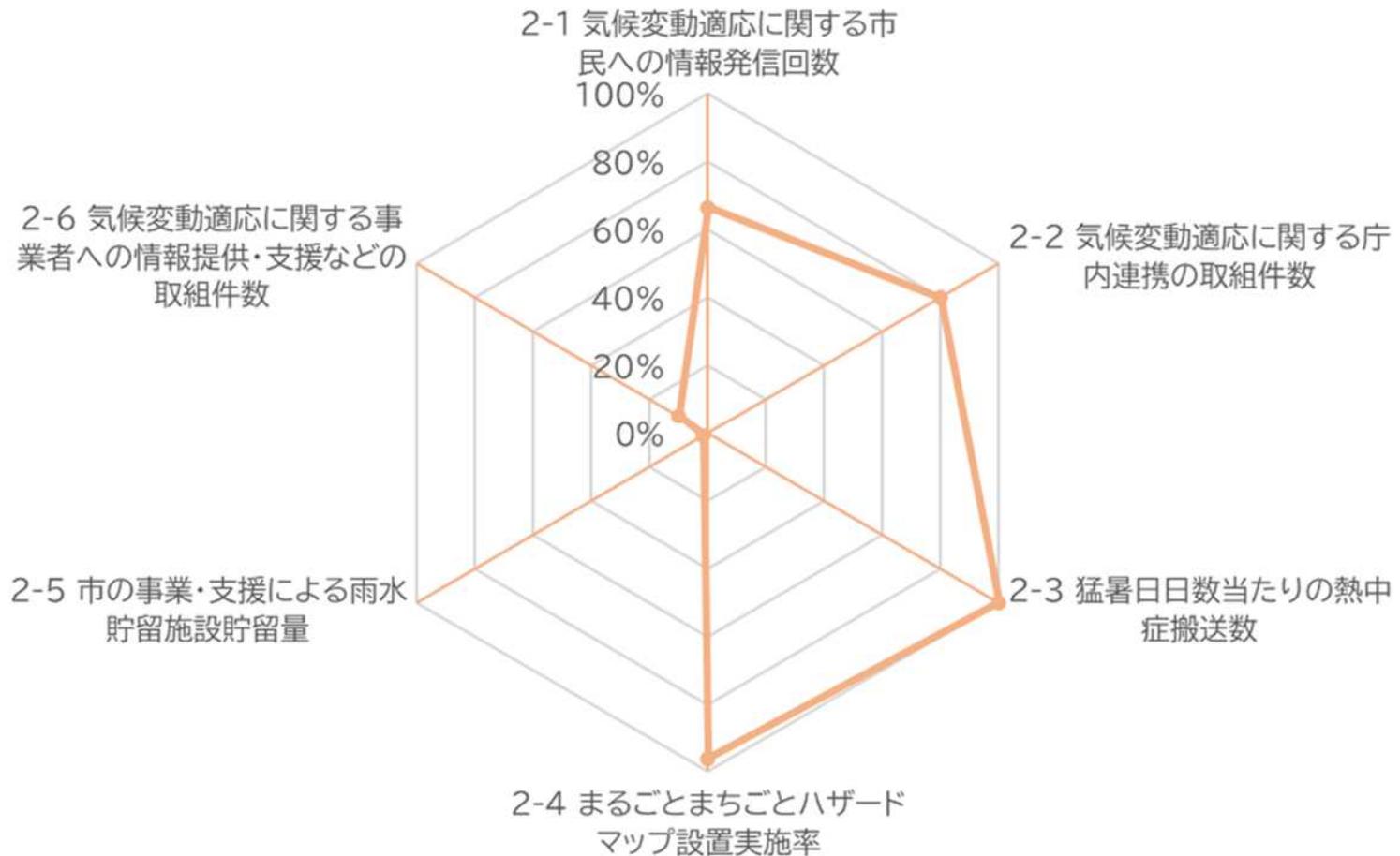


基本目標2 気候変動影響への適応



気候変動の影響に対し、命や財産を守ります。そのため、行政は他の関係者と協働し、気候変動によるリスクや影響を最小限にするための先手を打った対策を進めます。市民や事業者は、気候変動による影響への正しい理解を深め、適切に行動します。

■環境指標 6項目の取組指標の進捗状況を総合的に判断し、「A」評価とします。



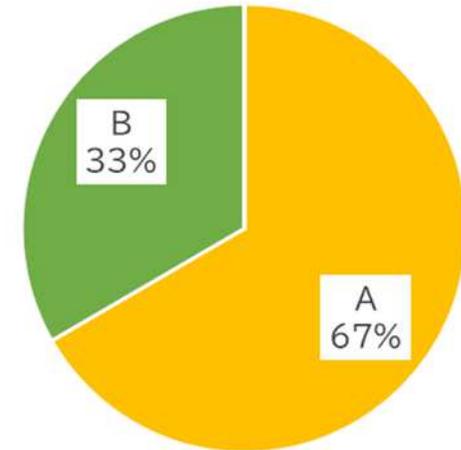
基本目標2 気候変動影響への適応



気候変動の影響に対し、命や財産を守ります。そのため、行政は他の関係者と協働し、気候変動によるリスクや影響を最小限にするための先手を打った対策を進めます。市民や事業者は、気候変動による影響への正しい理解を深め、適切に行動します。

取組指標

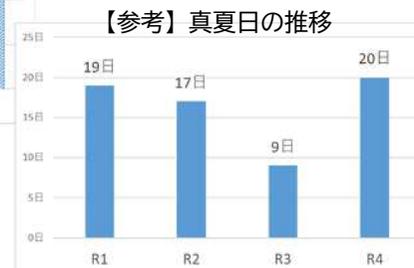
指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R4 (2022)	進捗 R4 (2022)	評価 R4 (2022)
基本目標2 気候変動影響への適応						
2-1	気候変動適応に関する市民への情報発信回数	回	3	2	67%	A
2-2	気候変動適応に関する市内連携の取組件数	件	5	4	80%	A
2-3	猛暑日数当たりの熱中症搬送数	人/日	9.16	8.75	100%	A
2-4	まるとまちごとハザードマップ設置実施率（総振）	%	—	96	96%	A
2-5	市の事業・支援による雨水貯留施設貯留量	m3	5,310	5,312	2%	B
2-6	気候変動適応に関する事業者への情報提供・支援などの取組件数	件	10	1	10%	B



目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	4	2	0	0	6



【参考】熱中症による救急搬送数



第21回こしがや産業フェスタ 2022での啓発の様子 18

基本目標3 資源循環型の地域形成

【取組の方向性】

- 3-1 市民・事業者との協働による資源循環の推進
- 3-2 排出事業者等による主体的なごみ減量・資源化の促進
- 3-3 新たなごみ収集・処理システムの構築
- 3-4 産業廃棄物対策の推進
- 3-5 農産物や食品等の地域内循環の推進



基本目標3 資源循環型の地域形成

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール

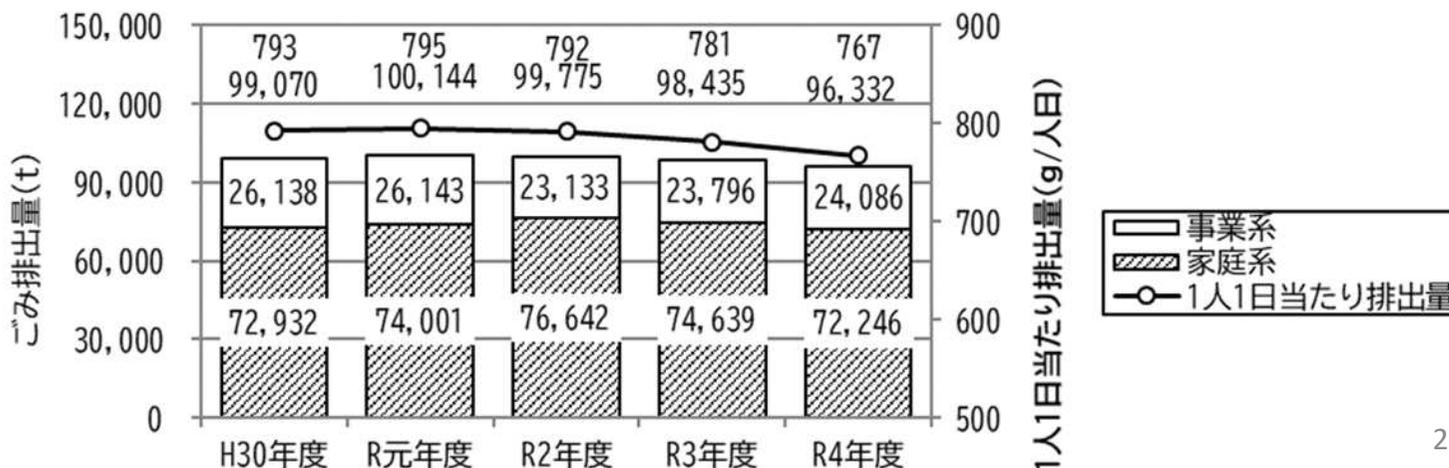


資源が適切に循環する社会を構築します。そのため、行政は他の関係者と協働し、ごみの適正処理の推進や地域内での資源循環を進めます。市民や事業者は、資源を大切にされた生活や事業活動を心がけ、行動します。

■環境指標

指標名	1人1日当たりごみ排出量 (総振)					目標値 令和12年度 (2030)	評価
	市民1人1日当たりが排出するごみの量【年間】						
現状値 令和元年度 (2019)	実績値					目標値 令和12年度 (2030)	評価
	令和3年度(2021)	令和4年度(2022)	令和5年度(2023)	令和6年度(2024)	令和7年度(2025)		
795 g/人・日	781 g/人・日	767 g/人・日	-	-	-	690 g/人・日	B

【参考】ごみ排出量の推移



基本目標3 資源循環型の地域形成

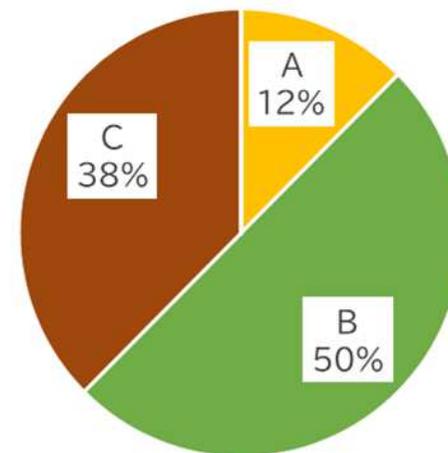
取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



資源が適切に循環する社会を構築します。そのため、行政は他の関係者と協働し、ごみの適正処理の推進や地域内での資源循環を進めます。市民や事業者は、資源を大切にされた生活や事業活動を心がけ、行動します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R4 (2022)	進捗 R4 (2022)	評価 R4 (2022)
基本目標3 資源循環型の地域形成						
3-1	リサイクル率（総振） 【再掲】	%	25	16.4	0%	C
3-2	家庭から排出される食品ロス量	t/年	6,000	7,786	13%	B
3-3	集団資源回収実施団体登録件数	団体	500	426	0%	C
3-4	事業系ごみ排出量	t	21,000	24,086	40%	B
3-5	排出事業者及び収集運搬許可業者を対象とした説明会実施回数	回	2	1	0%	C
3-6	ふれあい収集の登録件数（総振）	件	800	558	26%	B
3-7	電子Manifest普及率（総振）	%	90	79	21%	B
3-8	地場農産物の学校給食使用品目数	品目	12	12	100%	A



第47回越谷市民まつりでの啓発の様子

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	1	4	3	0	8



くわいを使った学校給食メニュー

基本目標4 生物多様性の保全と回復

【取組の方向性】

- 4-1 生きものの減少防止と回復
- 4-2 生息環境の維持と回復
- 4-3 生きものが暮らす環境の保全
- 4-4 グリーンインフラの整備と活用
- 4-5 生物多様性の普及の推進



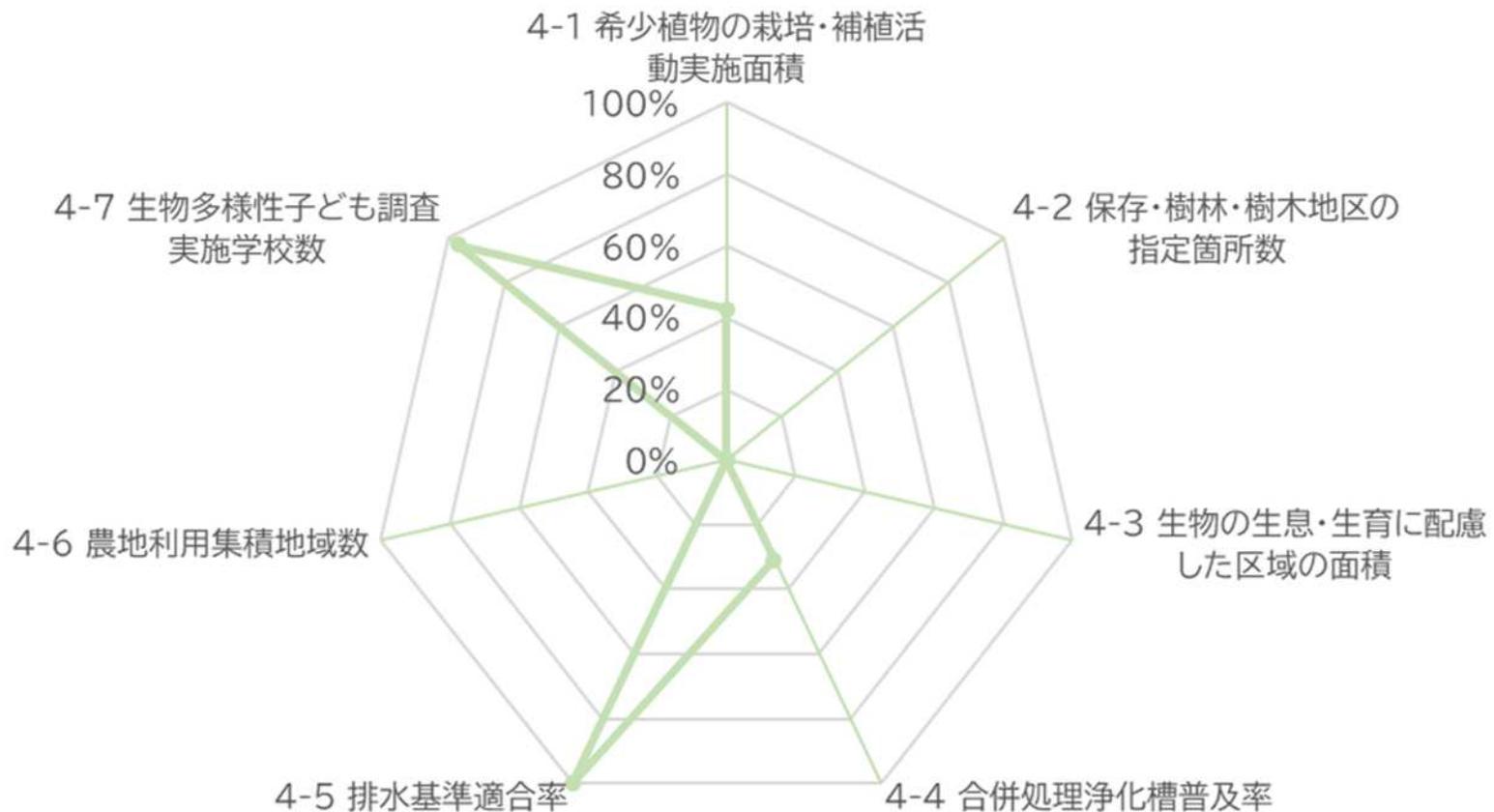
基本目標4 生物多様性の保全と回復

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



多くの動植物が生息する環境を保全し、生物多様性を回復します。そのため、行政は他の関係者と連携し、農地・屋敷林などの緑や河川などの動植物の生息・生育地を保全し、生物多様性の回復を進めます。市民や事業者は、地域の自然への関心を高め、重要性を認識します。

■環境指標 7項目の取組指標の進捗状況を総合的に判断し、「B」評価とします。



基本目標4 生物多様性の保全と回復

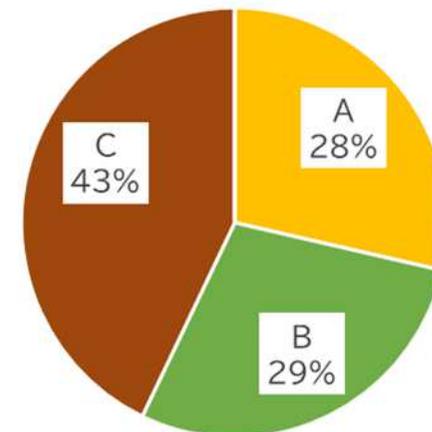
取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



多くの動植物が生息する環境を保全し、生物多様性を回復します。そのため、行政は他の関係者と連携し、農地・屋敷林などの緑や河川などの動植物の生息・生育地を保全し、生物多様性の回復を進めます。市民や事業者は、地域の自然への関心を高め、重要性を認識します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R4 (2022)	進捗 R4 (2022)	評価 R4 (2022)
基本目標4 生物多様性の保全と回復						
4-1	希少植物の栽培・補植活動実施面積	m2	135	120	42%	B
4-2	保存・樹林・樹木地区の指定箇所数（総振）	か所	R7 (2025) 10	0	0%	C
4-3	生物の生息・生育に配慮した区域の面積（総振）	ha	34	32.4	0%	C
4-4	合併処理浄化槽普及率（総振）	%	50	41	31%	B
4-5	排水基準適合率（総振）	%	R7 (2025) 100	100	100%	A
4-6	農地利用集積地域数（総振）	地域	6	4	0%	C
4-7	生物多様性子ども調査実施学校数	校	30	29	97%	A



令和4年7月14日に越谷市、株式会社CrowLab、東京電力パワーグリッド株式会社川口支社、東日本電信電話株式会社埼玉南支店で協定を締結し、越谷市内のカラスによる被害を減らし、住環境における地域課題を解決していくため、ICT技術等を活用した有効性確認のトライアルを実施した。

24

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	2	2	3	0	7



令和4年7月2日
大相模調節池
生き物調査

基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

【取組の方向性】

5-1 生活環境の保全

- 大気環境の保全
- 水質汚濁の防止
- 騒音・振動
- 化学物質等
- 悪臭・土壌等

5-2 都市景観の形成と歴史ある景観の保全

5-3 災害に柔軟に対応できるまちづくりの推進



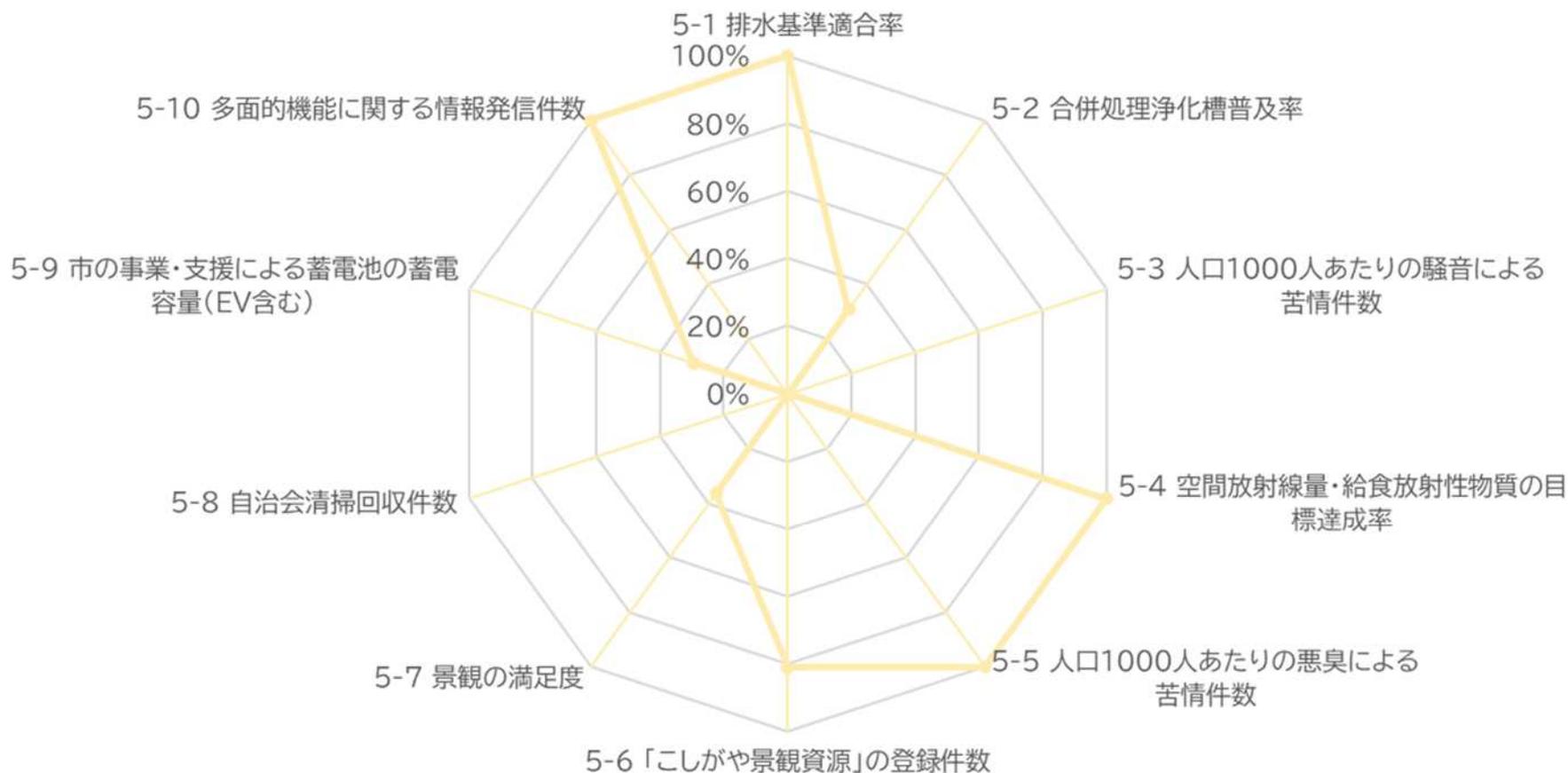
基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



私たちを取り巻く生活環境を適切に保全します。そのため、行政は他の関係者と協働し、測定・監視・指導などを行い、安全で安心な生活環境の形成を進めます。市民や事業者は、暮らしや産業活動によって生活環境を汚染しないよう心がけ、行動します。

■環境指標 10項目の取組指標の進捗状況を総合的に判断し、「A」評価とします。



基本目標5 安全で安心な生活環境の形成

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール

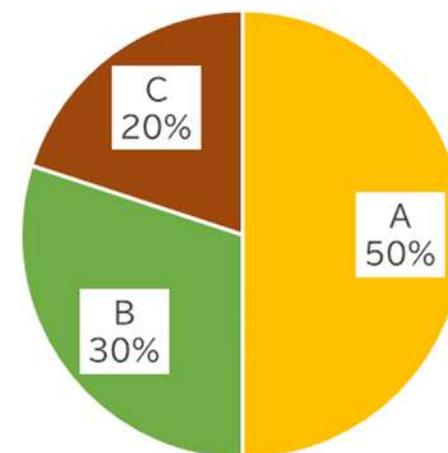


私たちを取り巻く生活環境を適切に保全します。そのため、行政は他の関係者と協働し、測定・監視・指導などを行い、安全で安心な生活環境の形成を進めます。市民や事業者は、暮らしや産業活動によって生活環境を汚染しないよう心がけ、行動します。

■取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R4 (2022)	進捗 R4 (2022)	評価 R4 (2022)	
基本目標5 安全で安心な生活環境の形成							
5-1	排水基準適合率（総振） 【再掲】	%	100	R7 (2025) 100	100	100%	A
5-2	合併処理浄化槽普及率 （総振）【再掲】	%	37	50	41	31%	B
5-3	人口1000人あたりの騒音 による苦情件数（SDGs ローカル指標）	人	0.15	0.15	0.27	0%	C
5-4	空間放射線量・給食放射 性物質の目標達成率	%	100	100	100	100%	A
5-5	人口1000人あたりの悪臭 による苦情件数（SDGs ローカル指標）	人	0.06	0.06	0.06	100%	A
5-6	「こしがや景観資源」の 登録件数（総振）（累 計）	件	65	R7 (2025) 240	207	81%	A
5-7	景観の満足度（総振）	%	66.7	R7 (2025) 70	67.9	36%	B
5-8	自治会清掃回収件数	件	372	400	337	0%	C
5-9	市の事業・支援による蓄 電池の蓄電容量（EV含 む）【再掲】	kWh	621.5	6,700	2,413	29%	B
5-10	多面的機能に関する情報 発信件数	件	4	6	8	100%	A

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	5	3	2	0	10



基本目標6 人づくり、参加・協働

【取組の方向性】

6-1 環境・SDGs教育の推進

6-2 環境・SDGs活動の推進

6-3 環境・SDGsに配慮した消費行動の喚起



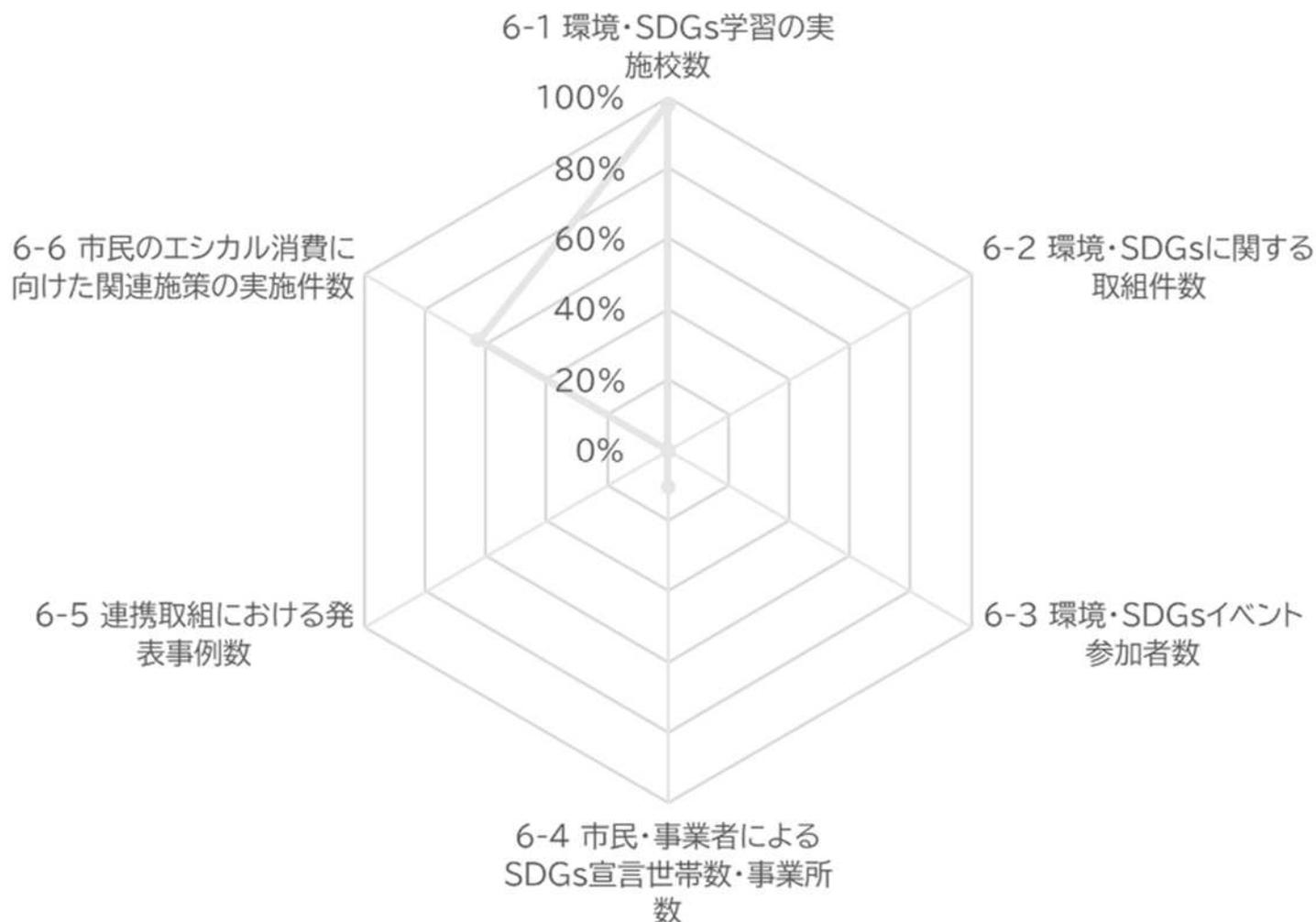
基本目標6 人づくり、参加・協働

取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



市内の全ての関係者の参加と協働を促し、一丸となって取り組みます。そのため、行政は他の関係者が行政事業に積極的に参加・協働できる場・仕組み作りを進めます。市民や事業者は環境やSDGsに対する正しい理解を深め、行政事業に積極的に参加・協働します。

■環境指標 6項目の取組指標の進捗状況を総合的に判断し、「B」評価とします。



基本目標6 人づくり、参加・協働

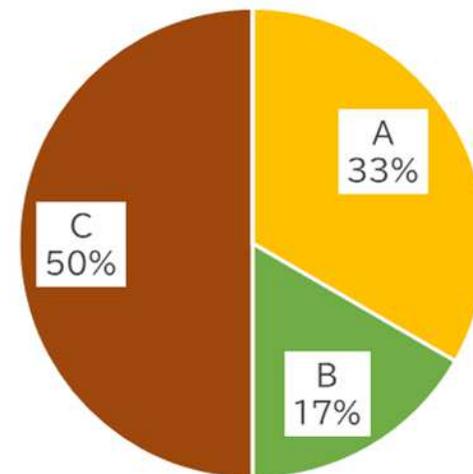
取組が貢献する
SDGsの該当ゴール



市内の全ての関係者の参加と協働を促し、一丸となって取り組みます。そのため、行政は他の関係者が行政事業に積極的に参加・協働できる場・仕組み作りを進めます。市民や事業者は環境やSDGsに対する正しい理解を深め、行政事業に積極的に参加・協働します。

取組指標

指標項目	単位	現況値 R1 (2019)	目標値 R12 (2030)	実績値 R4 (2022)	進捗 R4 (2022)	評価 R4 (2022)	
基本目標6 人づくり、参加・協働							
6-1	環境・SDGs学習の実施校数	校	45	44	98%	A	
6-2	環境・SDGsに関する取組件数(総振)	件	24	R7 (2025) 30	22	0%	C
6-3	環境・SDGsイベント参加者数	人	5,232	10,000	4,888	0%	C
6-4	市民・事業者によるSDGs宣言世帯数・事業所数(総振)	件	—	R7 (2025) 1,000	106	11%	B
6-5	連携取組における発表事例数	事例/年	—	10	0	0%	C
6-6	市民のエシカル消費に向けた関連施策の実施件数	件	2	10	7	63%	A



令和5年3月18日
こしがやSDGsパートナー
オープニングイベント30

目標達成	A	B	C	実施なし	合計
0	2	1	3	0	6



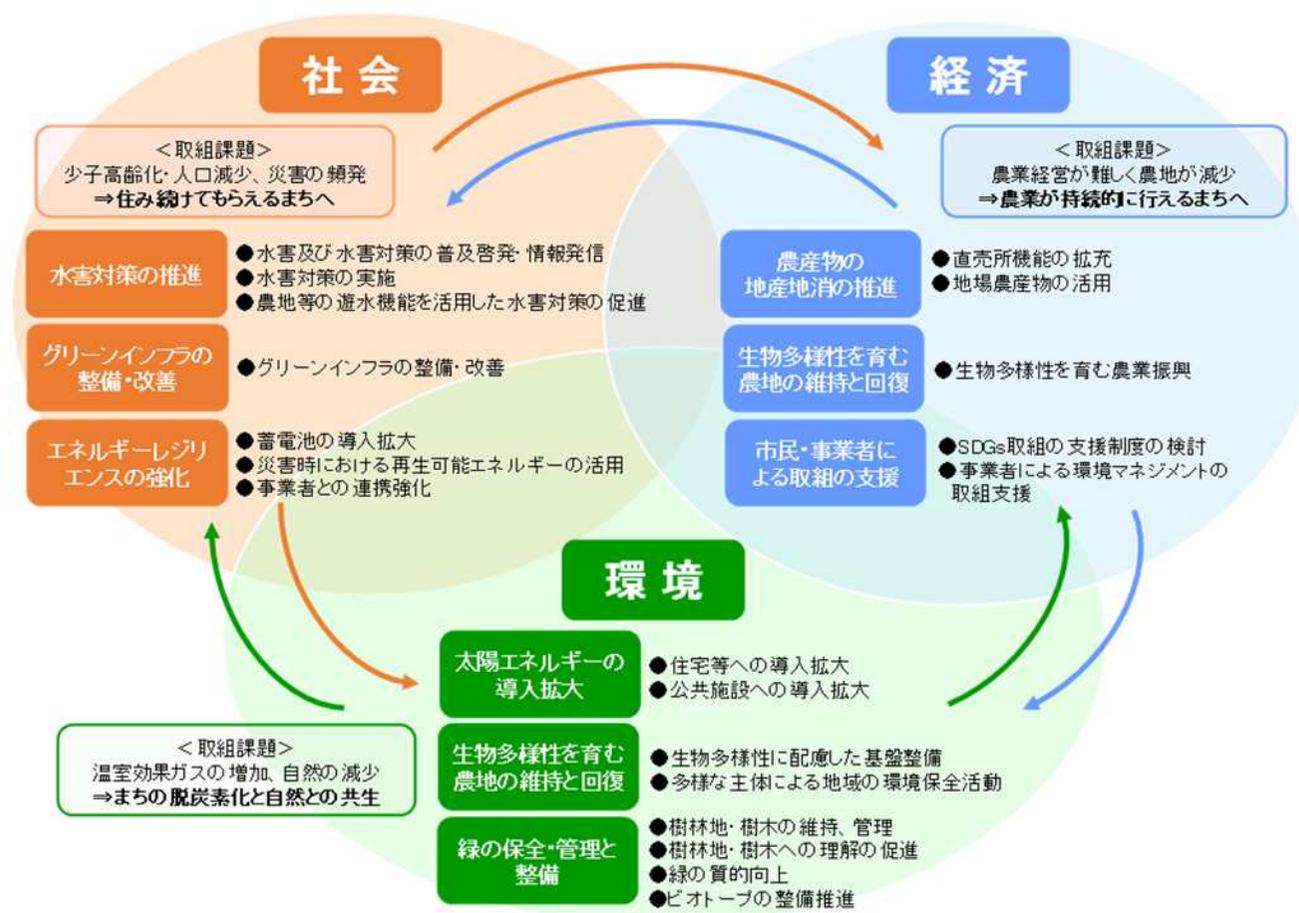
こしがやSDGsパートナー
オリジナルロゴマークの
ピンバッジと盾



SDGsの3側面（環境・社会・経済）の統合的かつ象徴的な取組 推進プロジェクト

プロジェクトの分野 「気候変動」 × 「防災」 × 「エネルギー」

みんなが創る 越谷の自然環境を活かした気候変動に強いまちづくり



推進プロジェクト① 環境面の取組

取組課題

温室効果ガスの増加、自然の減少
⇒まちの脱炭素化と自然との共生

太陽エネルギーの導入拡大

- 住宅等への導入拡大
- 公共施設への導入拡大

生物多様性を育む農地の維持と回復

- 生物多様性に配慮した基盤整備
- 多様な主体による地域の環境保全活動

緑の保全・管理と整備

- 樹林地・樹木の維持、管理
- 樹林地・樹木への理解の促進
- 緑の質的向上
- ビオトープの整備推進

進捗管理指標

指標項目	現況値 令和元年度 (2019)	目標値 令和12年度 (2030)	実績値 令和4年度 (2022)	進捗 令和4年度 (2022)
市の事業・支援による太陽光発電設備の発電容量	7,423 kW	11,000 kW	8,780 kW	38%
生物の生息・生育に配慮した区域の面積	32.4ha	34ha	32.4ha	0%

推進プロジェクト② 社会面の取組

取組課題

少子高齢化・人口減少、災害の頻発
⇒住み続けてもらえるまちへ

水害対策の推進

- 水害及び水害対策の普及啓発・情報発信
- 水害対策の実施
- 農地等の遊水機能を活用した水害対策の促進

グリーンインフラの整備・改善

- グリーンインフラの整備・改善

エネルギーレジリエンスの強化

- 蓄電池の導入拡大
- 災害時における再生可能エネルギーの活用
- 事業者との連携強化

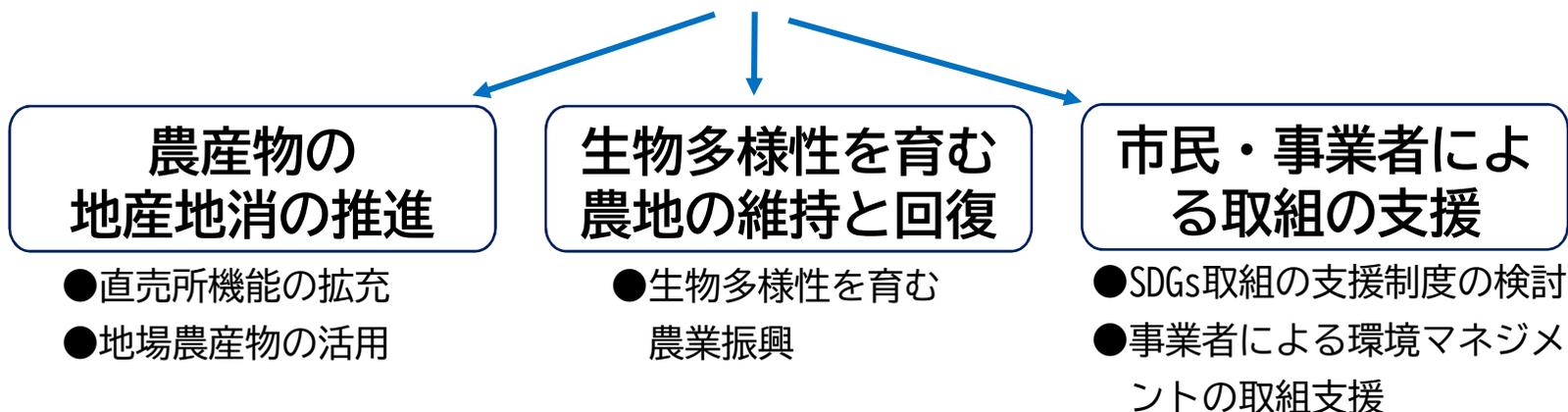
進捗管理指標

指標項目	現況値 令和元年度 (2019)	目標値 令和12年度 (2030)	実績値 令和4年度 (2022)	進捗 令和4年度 (2022)
まるごとまちごとハザードマップ 設置実施率(総振)	-	令和7年度 (2025) 100%	96%	96%
市の事業・支援による蓄電池の 蓄電容量(EV含む)	621.5 kWh	6,700 kWh	2,413 kWh	29%

推進プロジェクト③ 経済面の取組

取組課題

農業経営が難しく農地が減少
⇒農業が持続的に行えるまちへ



進捗管理指標

指標項目	現況値 令和元年度 (2019)	目標値 令和12年度 (2030)	実績値 令和4年度 (2022)	進捗 令和4年度 (2022)
地場農産物の 学校給食使用品目数	12品目	12品目	12品目	100%
市民・事業者によるSDGs宣言世帯数・ 事業所数	-	令和7年度 (2025) 1,000件	106件	11%